

科目名	教育心理学		
担当教員名			
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年		ク ラ ス	
開 講 期		必修・選択の別	
授 業 形 態		単 位 数	
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

人間発達心理学科の専門科目として、学校教育の諸活動に活用しうる心理学的知識への理解を深めるための科目である。

科目の概要

児童生徒の心身の発達、学習・教授学習過程の特質などを中心に取り上げる。さらに、学校教育における「生きる力を育む」ための「学び」の本質を理解することをめざす。さらに、受講生自身や級友・学友たちがどのように学び成長し発達してきたのかについて、教育心理学の視点や知見を提示し、より客観的に理解する機会も提供する。

学修目標

児童期から青年期へと移行していく児童・生徒の心理的諸特性がどのように発達するのかをより深く理解し、子ども理解に役立てようとする態度をもつ。さらに、学校における多様な学習活動の過程や意義を理解するために、教育心理学的な知見を適用しつつ客観的科学的に分析する態度を養う。

内容

1. 子ども理解・学習活動の理解と教育心理学
2. 知能の発達と学力
3. 道徳性の発達
4. 社会性の発達
5. 教師と子ども間関係、子ども間の人間関係の発達
6. 諸特性の発達を測定する方法
7. 学習過程の基礎(1) 心理学における学習、条件づけ
8. 学習過程の基礎(2) 学習意欲と統制感・原因帰属
9. 学習過程の基礎(3) 観察学習、学習の諸相
10. 学習過程の基礎(4) 記憶、メタ認知、問題解決としての学習
11. 学習過程の基礎(5) 学習指導に生かす教育評価のあり方
12. 子どもの個人差に応じた学習指導
13. 学校における不適応
14. 特別支援教育の理解
15. 学習のまとめと確認

評価

期末試験：90点，授業内課題10点の計100点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】配布されたプリントをもとに出題された課題に取り組む

【事後学修】学習したことを、子ども理解、教育活動の理解と結びつけるように考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

教職ガイダンス等で指示します。

科目名	社会・公民科教育法		
担当教員名	川崎 誠司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職に関する科目の中の各教科の指導法

科目の概要

- ・ 中学校社会科公民的分野の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。
- ・ 高等学校公民科の目標・内容と指導法の基礎を学ぶ。
- ・ 模擬授業を通して、実践的指導力を身に付ける。

学修目標（＝到達目標）

中等教育における社会科教育、とくに公民教育の概要を学ぶことを通して、中学社会科・高校公民科を担当するために求められる知識・技能等の育成をはかり、実践的な指導力を培う。

内容	
1	「公民」または公民的資質という概念について
2	中学校社会科公民的分野の目標と内容
3	社会集団意識の発達と学習内容
4	政治意識の発達と学習内容
5	経済意識の発達と学習内容
6	時事問題の扱い方
7	新聞を活用した学習指導の展開 N I E の実践
8	さまざまなメディアを活用した指導方法の工夫
9	高等学校公民科の目標と教科構造
10	「現代社会」の目標と内容
11	「倫理」の目標と内容
12	「政治・経済」の目標と内容
13	学習指導案の作成演習
14	模擬授業
15	評価の観点と具体的方法

評価

毎回の小テストまたは課題50点と、定期試験50点を併せ、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストを参照しながら，講義内容について事前に全体像を把握しておく。

【事後学修】講義内容を振り返り，教材研究の方向性について自分の関心に照らしながら考え，学習指導計画の構想の準備を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ』東京学芸大学出版会

【参考図書】「社会認識を育てる授業の創造」 長谷川正 東洋館出版社 ほか適宜指示する

科目名	社会科教育法（公民科教育序論）		
担当教員名	川崎 誠司		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 高等学校教諭一種免許状（公民）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格

教職に関する科目の中の各教科の指導法

科目の概要

- ・初等・中等教育における社会科教育、とくに公民教育についての概要を学ぶ。
- ・高等学校においては、公民科が独立していることの意義を学ぶ。
- ・社会科教育の理念を学び、指導の実際について理解を深める。

学修目標（ = 到達目標 ）

初等・中等教育における社会科教育、とくに公民教育の概要を学ぶことを通して、中学社会科・高校公民科を担当するために求められる知識・技能等の育成をはかり、実践的な指導力を培う。

内容	
1	総合教科としての社会科の成立
2	初等・中等教育における社会科の基本的性格
3	社会科学学習指導要領の変遷（昭和20年代の動向）
4	社会科学学習指導要領の変遷（昭和30年代以降）
5	社会科・公民科学習指導要領の変遷（平成元年改訂以降）
6	高等学校における公民科誕生の意義
7	教育の目的と公民的分野・公民科の教育目標総論
8	生活科の誕生と社会科教育のかかわり
9	各学年の社会科の教育目標・学習内容
10	社会科・公民科の内容構成原理
11	年間指導計画と、その作成原理
12	公民科の学習過程
13	公民科の指導形態と指導法
14	教科書と副教材の活用
15	視聴覚教材活用の基本的方法

評価

毎回の小テストまたは課題50点と、定期試験50点を併せ、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストを参照しながら，講義内容について事前に全体像を把握しておく。

【事後学修】講義内容を振り返り，教材研究の方向性について自分の関心に照らしながら考え，学習指導計画の構想の準備を行う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 東京学芸大学社会科教育学研究室編『中高社会科へのアプローチ』東京学芸大学出版会

【参考図書】「社会科理論の批判と創造」 谷川彰英 明治図書 ほか適宜指示する。

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は英語科教職課程カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、この科目の単位が取れないと教育実習に出ることはできません。

科目の概要

「英語教科教育法Ⅰ,Ⅱ」(2 年前期後期) で習得した点をふまえて、英語科教育の理論と方法について理解を深め、発展的な事項を学びます。さらに、授業の具体的な技術・方法を模擬授業をとおして体験的に学び、4 年次の教育実習への橋渡しとします。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 英語科教育の理論と方法について理解し、授業の指導案を作成できる、(ii) 指導案をもとに模擬授業を行い、改善点を発見し、修正することができる。

内容

下記と並行して、英語力アップのための小テストを毎回行うとともに、動詞、準動詞を中心に英文法の総整理をおこなう。

1	公開研究授業のビデオの視聴(1)
2	公開研究授業のビデオの視聴(2)
3	公開研究授業のビデオの視聴(3)
4	授業の構成 (年間の授業計画の中での位置付けと 1 時間ごとの授業設計) (1)
5	授業の構成 (年間の授業計画の中での位置付けと 1 時間ごとの授業設計) (2)
6	Listening、Speaking、Reading、Writing の 4 技能の実際的指導(1)
7	Listening、Speaking、Reading、Writing の 4 技能の実際的指導(2)
8	Listening、Speaking、Reading、Writing の 4 技能の実際的指導(3)
9	文法・語彙の指導(1)
10	文法・語彙の指導(2)
11	教材研究 (中学校英語教科書と副教材の分析) (1)
12	教材研究 (中学校英語教科書と副教材の分析) (2)
13	模擬授業 (学生同士の授業分析と評価) (1)
14	模擬授業 (学生同士の授業分析と評価) (2)
15	まとめ

評価

(1) 授業への参加状況 2 0 %

(2) 小テスト 4 0 %

(3)レポート、または期末テスト40%
とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】テキストの指定された箇所を読み、事前準備シートをもとに疑問点等をまとめておく。取り上げる文法事項について説明できるようにしておく。

【事後学修】定着していない文法事項について復習しておく。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】第1回授業時に指示します

【推薦書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社。

【参考図書】授業で紹介します

科目名	英語科教育法		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

英語科教職カリキュラムにおける教職に関する科目の1つで、教育実習に出るには、英語教科教育法I～IVすべての単位を取得する必要があります。

科目の概要

「英語教科教育法 Ⅰ」(2年前期・後期)および「英語教科教育法 Ⅱ」(3年前期)で習得した英語教育の理論と方法についての知識を、実際に授業を行うための具体的な技術・方法に直接結び付け、自分なりの教授法が確立できるようにします。

学修目標 (= 到達目標)

(i) 授業で学んださまざまな教授法を実際の模擬授業で試してみる、(ii) 模擬授業を通して自分なりの教授法を確立する。

内容

- (1) 実習校での使用予定の教材研究を行った上で、教案を作成し、それに基づいて50分の模擬授業を行う。教師役の学生と生徒役の学生がそれぞれ模擬授業の後で、批評をし合う。
- (2) 前期に引き続き、教える立場に立った英文法について総点検を行う。
- (3) 教科書に使用されている世界の文化的背景についての知識も深める。

評価

- (1) 授業への参加状況 20%
 - (2) 小テスト 40%
 - (3) レポート、または期末テスト 40%
- とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】テキストの指定された箇所を読み、事前準備シートをもとに疑問点等をまとめておく。取り上げる文法事項について説明できるようにしておく。
- 【事後学修】定着していない文法事項について復習しておく。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

- 【教科書】第1回授業で指示します
- 【推薦書】『英語教育 実践から理論へ』 米山朝二著、松柏社。
- 【参考図書】授業で紹介します

科目名	福祉科教育法		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

高等学校「福祉科」教員資格取得のための教職課程科目である。高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成において重要な科目である。

科目の概要

教育法 では福祉科のねらいと特質、単元構成、教科研究などを取り上げて学習する。授業では、講義、演習、発表、体験的实践等の方法を取り入れる。

学修目標（＝到達目標）

- ・高等学校福祉科の基本理念、指導内容・指導方法等についての基本的理解できる
- ・福祉観の捉えなおし（意識化と相互理解・相互啓発）
- ・学習指導の各種手法についての体験的・実践的理解ができる
- ・上記を通しての教育観の捉えなおし

内容

1	福祉教育の意義と福祉
2	福祉科の目標
3	福祉科の内容構成
4	7科目の教材研究 「社会福祉基礎」
5	7科目の教材研究 「社会福祉制度」
6	7科目の教材研究 「社会福祉援助技術」
7	7科目の教材研究 「基礎介護」
8	7科目の教材研究 「社会福祉実習」
9	7科目の教材研究 「社会福祉演習」
10	7科目の教材研究 「福祉情報処理」
11	教材研究のまとめ
12	福祉科の指導上の留意点
13	福祉科における実習・演習の意義と指導法
14	福祉科における実習・演習の意義と指導法
15	まとめ

評価

レポート30点、発表60点、平常点10点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業で予習内容を指示する

【事後学修】毎回の授業で学修内容を指示する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「高等学校学習指導要領解説 福祉編」実教出版

大橋謙策編「福祉科指導法入門」中央法規出版

科目名	福祉科教育法		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（福祉）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

高等学校「福祉科」教員資格取得のための教職課程科目である。高等学校の教科「福祉」を担当する教員として必要な基礎的知識・技能の習得及び力量形成において重要な科目である。福祉科教育法 の履修済みが前提となる。

科目の概要

教育法 では学習指導、授業研究、実習の指導などを体験的・実践的に学ぶ。授業では、引き続き、講義、演習、発表、体験的实践等の方法を取り入れる。教育法 に引き続き、学習指導の各種手法についての体験的・実践的に理解することが求められる。

学修目標（＝到達目標）

- ・福祉科科目の目標とその指導法を理解ができる
- ・福祉科学習指導案を作成する力を身につける
- ・模擬授業演習を通じて、学習指導案を検討し、授業を改善することができる

内容

1	授業のねらいと概要（学習指導案作成および各科目指導法について）
2	福祉科の指導法の概要
3	「社会福祉基礎」の目標とその指導法
4	「介護福祉基礎」の目標とその指導法
5	「コミュニケーション技術」の目標とその指導法
6	「生活支援技術」の目標とその指導法
7	「介護課程」の目標とその指導法
8	「介護総合演習」の目標とその指導法
9	「介護実習」の目標とその指導法
10	「こころとからだの理解」の目標とその指導法
11	「福祉情報活用」の目標とその指導法
12	福祉科学習指導案の作成と改善の検討
13	模擬授業1（授業評価及び指導案の検討を含む）
14	模擬授業2（授業評価及び指導案の検討を含む）
15	模擬授業3（授業評価及び指導案の検討を含む）まとめ

評価

ミニレポート10点×3、最終レポート70点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】毎回の授業で予習内容を指示する

【事後学修】毎回の授業で学修内容を指示する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】大橋謙策監修「文部科学省検定済教科書 社会福祉基礎」中央法規出版

【推薦書】必要に応じて紹介する

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 の科目のうち3つ目にあたる。

科目の概要

授業における指導力をつけるために、家族・家庭生活、衣食住生活、消費生活などの各領域について指導上の理解を深めるとともに、中・高校生向けの授業づくりや模擬授業を通して指導実践力を身につける。

学修目標（=到達目標）

- ・1単位時間の授業を構想し、学習指導案やワークシート等を作成できる。
- ・模擬授業を行い、家庭科授業を行うために必要な教授技術が理解できる。
- ・家庭科授業を実施するために重視すべき事項を説明できる。

内容

第1回：家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらい、授業計画、評価方法などについて）

第2回：教材開発1（教材開発の視点、教材開発方法）

第3回：教材開発2（家族・家庭生活と福祉の内容）

第4回：教材開発3（食生活と健康の内容）

第5回：教材開発4（消費生活と衣生活の内容）

第6回：教材開発5（住生活と環境の内容）

第7回：中・高等学校での授業観察

第8回：指導案検討（学習指導案、教材プリント、板書計画）

第9回：模擬授業の発表1（家族・家庭生活と福祉の内容、講義形式または演習形式で）

第10回：模擬授業の発表2（衣食生活の内容、講義形式または演習形式で）

第11回：模擬授業の発表3（食生活の内容、講義形式または演習形式で）

第12回：模擬授業の発表4（住生活の内容、講義形式または演習形式で）

第13回：模擬授業の発表5（消費生活の内容、講義形式または演習形式で）

第14回：模擬授業の発表6（環境分野の内容、講義形式または演習形式で）

第15回：模擬授業発表の評価・分析

評価

レポートまたは課題50点と、演習（模擬授業 他）50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書や配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。

【事後学修】講義の内容や他の受講生の意見等をもとに、自分の考えの変容をまとめて記録する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	家庭科教育法		
担当教員名	田中 和江		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教員の免許状（中学校 家庭・高等学校 家庭）取得のための必修科目。

家庭科教育法 、 、 、 の科目のうち4つ目にあたる。

科目の概要

中・高等学校家庭科の学習指導の原理や教科の独自性を生かした学習指導方法について概説する。また、生徒の学習活動を支援する指導方法の工夫や実験・実習を積極的に取り入れ、授業実践のための基礎的な考え方と方法を習得し、教職に対する動機づけをする。

学修目標（＝到達目標）

- ・家庭科学習上の諸問題をふまえて、家庭科指導の特質や指導の在り方について考察できる。
- ・授業実践をふまえながら、生徒に応じた学習指導の工夫を考察できる。
- ・家庭科の授業分析を行い、良い授業とは何か自分なりの考えをもてる。

内容

第1回：家庭科教育法 を学ぶにあたって（授業のねらい、授業計画、評価方法などについて）

第2回：中等教育における家庭科教育

第3回：中学校家庭科の授業実践の検討1

第4回：中学校家庭科の授業実践の検討2

第5回：高等学校家庭科の授業実践の検討1

第6回：高等学校家庭科の授業実践の検討2

第7回：指導案検討（学習指導案、教材プリント、板書計画）

第8回：模擬授業の発表1

第9回：模擬授業の発表2

第10回：模擬授業の発表3

第11回：模擬授業の発表4

第12回：模擬授業の発表5

第13回：模擬授業の発表6

第14回：模擬授業発表の評価・分析

第15回：これからの家庭科教師に求められる資質

評価

レポートまたは課題50点と、演習（模擬授業 他）50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書や配布資料の指定箇所を読み、理解しておく。

【事後学修】講義の内容や他の受講生の意見等をもとに、自分の考えの変容をまとめて記録する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】文部科学省「中学校学習指導要領解説 技術・家庭編」教育図書、2008

文部科学省「高等学校学習指導要領解説（家庭編）」開隆堂出版、2010

【推薦書】授業内に紹介する。

【参考図書】適宜指示する。

科目名	保健科教育法		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本講義は教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」の保健指導法に位置する。

科目の概要

保健科教育法 を受けて開講する科目であり、内容は高等学校科目保健の教育内容を扱う。

「保健」の教員免許状取得希望者は本講義と後期に開講する保健科教育法 を受講することを勧める。
また、養護教諭免許状取得希望者も保健の授業を担当する機会が増えているため受講することを勧める。

学修目標（=到達目標）

- ・ 小学校保健領域、中学校保健分野の内容と高等学校科目保健の違いが理解できる。
- ・ 高等学校科目保健の教育実践事例を学び、その指導法を習得できる。

内容

1	ガイダンス、教育課程における保健教育
2	高等学校科目「保健」の特徴
3	評価の方法
4	専門講師による保健教育の実際
5	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
6	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
7	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
8	模擬授業と授業分析
9	模擬授業と授業分析
10	模擬授業と授業分析
11	模擬授業と授業分析
12	模擬授業と授業分析
13	模擬授業と授業分析
14	筆記試験
15	まとめ

評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。模擬授業作成の取り組み、模擬授業70%、筆記試験30%とし総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】指導案の作成や模擬授業準備
- 【事後学修】模擬授業等の振り返り 改善指導案の提出等

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】中学校保健体育教科書、高等学校保健体育教科書
文部科学省 高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）
- 【推薦書】授業時間内で紹介する
- 【参考図書】文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

科目名	保健科教育法		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本講義は教職に関する科目「教育課程及び指導法に関する科目」の保健指導法に位置する。

科目の概要

保健科教育法 を受けて開講する科目であり、内容は高等学校科目保健の教育内容を扱う。

「保健」の教員免許状取得希望者は受講することを勧める。また、養護教諭免許状取得希望者も保健の授業を担当する機会が増えているため受講することを勧める。

学修目標（=到達目標）

- ・ 小学校保健領域、中学校保健分野の内容と高等学校科目保健の違いが理解できる。
- ・ 高等学校科目保健の教育実践事例を学び、その指導法を習得できる。

内容

1	ガイダンス
2	プレゼンテーションスキル
3	プレゼンテーションスキル
4	専門講師による保健教育の実際
5	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
6	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
7	担当模擬授業の指導案作成と授業準備
8	模擬授業と授業分析
9	模擬授業と授業分析
10	模擬授業と授業分析
11	模擬授業と授業分析
12	模擬授業と授業分析
13	模擬授業と授業分析
14	筆記試験
15	まとめ

評価

免許取得に必要な科目であるため出席は2/3以上を単位認定の必須条件とする。模擬授業作成の取り組み、模擬授業70%、筆記試験30%とし総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】指導案の作成や模擬授業準備
- 【事後学修】模擬授業等の振り返り 改善指導案の提出等

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】中学校保健体育教科書、高等学校保健体育教科書
文部科学省 高等学校学習指導要領解説（保健体育編・体育編）
- 【推薦書】授業時間内で紹介する
- 【参考図書】文部科学省 学習指導要領解説（小学校体育編、中学校及び高等学校保健体育編）

科目名	生徒指導		
担当教員名	富山 哲也		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職免許法に定められた「教科に関する科目」のうち、「生徒指導，教育相談及び進路指導等に関する科目」として開講する。教員として不可欠な生徒理解，問題行動等の未然防止，キャリア教育の推進，組織的な生徒指導の在り方等について学修する。

科目の概要

生徒指導は，一人一人の児童生徒の人格を尊重し，個性の伸長を図りながら，社会的資質や行動力を高めるように指導，援助するものである。この科目では，生徒指導に関する様々な問題とその背景，対応の在り方について理解するとともに，問題行動等への対応にとどまらない，より組織的・体系的な生徒指導の進め方について考える。講義では，グループワークを多く取り入れるため，事前に資料を読み，自分の考えをもって講義に臨むことが必要である。

学修目標（＝到達目標）

児童生徒とのよい人間関係づくりや，深い児童生徒理解に基づく指導に関する知識を身に付ける。

いじめや不登校，反社会的な行動の予測と未然防止に関する実践的な指導力を身に付ける。

キャリア教育や自己肯定感を高める指導・援助の方法を身に付ける。

内容	
1	ガイダンス，生徒指導の基本的な考え方
2	生徒指導に関する諸問題～現状や背景の理解～
3	生徒指導と人間関係の構築～集団指導と個別指導～
4	基本的な生活習慣の確立，児童生徒を取り巻く危険と安全教育
5	喫煙，飲酒，薬物乱用防止に関する指導
6	暴力行為に関する指導，いじめに関する指導
7	インターネット・携帯電話にかかわる問題に関する指導
8	命の教育と自殺の防止，児童虐待への対応
9	不登校に関する指導
10	組織的・体系的な生徒指導～年間指導計画，生徒指導主事の役割～
11	生徒指導の機能を生かした教科指導，学級経営
12	生徒指導と教育相談～組織的な教育相談の進め方～
13	進路指導の実際～キャリア教育の推進～
14	生徒指導に関する資料の保管・活用と生徒指導要録
15	学修のまとめ・事例研究～生徒指導に関する諸問題の予防と解決のために～

事前課題への取り組みと小レポートの内容（40%）、グループワークの状況（20%）、まとめのレポートの内容（40%）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】毎回、『生徒指導提要』の関連部分を読んで自分の考えをまとめてくる。

【事後学修】毎回、小レポートを提出する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】『生徒指導提要』（文部科学省，平成22年，教育図書）

【推薦書】授業で紹介する。

【参考図書】授業で紹介する。

科目名	教育相談		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 栄養教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

学級担任としての教育相談的対応のためには、他の教師やスクールカウンセラーとの連携による組織的な指導援助を欠かすことができない。学生自身が主体的に学び、相互に意見交流をする体験を通して、教師として大切な協働の精神や人間関係形成力を身につける。

科目の概要

学校教育において個に応じたきめ細かな指導を進めるために、児童生徒理解は欠かすことはできない。指導にあたる教師が児童生徒のありのままを受け止め、教育相談的にかかわることができるようにするため、下記の学修目標にかかわる事項について具体的に考慮する。

学修目標 (= 到達目標)

- (1) 教育相談やカウンセリングの歴史及び基本的な理論について理解し、学校教育相談の意義や課題について考察する。
- (2) 学校において生徒指導の中核をなす教育相談の果たす役割について理解し、カウンセリングマインドによる具体的な指導のあり方について考察する。
- (3) 学校教育相談の進め方について理解し、カウンセリングの基礎的な技能を身につける。

内容	
1	学校教育と教育相談
2	乳児期・幼児期における子どもの問題
3	小学校における子どもの問題
4	中学校・高等学校における子どもの問題
5	発達障害の理解と支援
6	精神疾患の理解と支援
7	教育相談の理論
8	教育相談の技法
9	学級経営に生かす教育相談
10	学校で使えるアセスメント
11	保護者への理解と支援
12	校内及び関係機関との連携、カウンセリングの実際
13	スクールカウンセラーの活用、カウンセリング模擬体験
14	カウンセリング実習 (1) 家族・性格の問題
15	まとめ、カウンセリング実習 (2) 進路・人間関係の問題

評価

出席 2 / 3 以上必須、毎回の授業の振り返り、レポート課題、発表等の平常点が評価40%、試験による評価が60%で、総合評価60点以上を合格とする。合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前準備】事前に出された課題について調べ、教科書等の該当ページに目を通しておく。

【事後学修】本時の学習課題について自分の言葉でまとめをする。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「教師のたまごのための教育相談」会沢信彦、安斉順子 編著 北樹出版

【推薦書】

「小学校学習指導要領」文部科学省

「学級教育相談入門」有村久春 著 金子書房

「生徒指導と教区相談」教職教育講座第5巻 長谷川栄、杉原一昭 編 共同出版

科目名	教育実習		
担当教員名	田中 和江、名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

教職課程必修の教育実習事前事後指導

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標 (= 到達目標)

参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。形式は、レポート50点、実習日誌50点とし、60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】教育実習配当校との事前準備
- 【事後学修】教育実習配当校との事後評価

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

参観実習及び経壇実習の製菓を最大限に引出し、教職をめざすものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする

科目の概要

教科教育法や教科関連科目によって修得してきた知識・理論・方法等を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたっての具体的な事前・中間・事後の指導を行う

学修目標 (= 到達目標)

上記内容の達成を学修目標とする。教育実習に直接かかわる科目であり、情熱と問題意識をもって積極的に取り組んでいくことが肝要である。

内容	
1	事前指導 教育実習オリエンテーション
2	事前指導 実習時における勤務・サービスの心得
3	事前指導 実習記録の作成法
4	同上
5	事前指導 配当科目についての最終的な指導案の作成
6	事前指導 事前模擬授業実施
7	同上
8	同上
9	事前指導 実習校事前訪問指導
10	中間指導 実習を振り返り反省会
11	中間指導 日誌の中間提出
12	中間指導 事後実習に向けての指導
13	事後指導 実習校事後訪問指導
14	事後指導 教育実習報告書作成指導
15	まとめ 教育実習報告会の実施

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教職をめざすものとしての心構えの理解や授業運営能力などを総合的に評価する。事前模擬授業実施20%、教育実習日誌内容60%、報告書作成や報告会参加20%とし、総合評価60点以上を

合格とする。

授業外学習

【事前準備】 定めた資料に必ず目を通し準備を行って授業に参加すること

【事後学修】 授業の内容を言語化し、繰り返し修得すること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】 教育実習校で各自使用した教科書

【推薦書】 必要に応じて、適宜指示する

【参考図書】 必要に応じて、適宜指示する

科目名	教育実習		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子、志賀 廣夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/ 中学校教諭一種免許状（社会）/ 高等学校教諭一種免許状（公民）/ 高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 高等学校教諭一種免許状（福祉）/ 高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）/ 高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教育職員免許法に定められた「教育実習」に関する事前事後指導を行う科目です。主として、中学校や高等学校の一種免許状を取得する際に、履修します。教育実習において経験する諸活動に関する原理や原則を学びます。実習の事後においては、実習の成果を省察し、教員として最小限必要となる資質や能力が形成されたかを確認します。

科目の概要

教育実習に望むためには、学校の教員として、学校に勤務する際の基本を身につける必要があります。また、学習指導や生徒指導を展開するためには、児童生徒の実態に応じて、臨機応変にさまざまな状況に対処する力が必要です。こうした点について、教育実践記録に関する文献や映像、実際の学校教育活動の参観等を通して、学習します。

学修目標（＝到達目標）

1. 教員として最小限必要となる資質や能力のうち、教育実習に参加できるだけの力を身につける。
2. 教育実践記録に関する諸文献、諸映像、学校参観等を通して、教員として必要となる資質や能力を身につけることができる。
3. 現代の学校教育をめぐる諸課題について関心を持ち、その解決に向けて、考えをまとめたり、実行したりすることができる。

内容

以下に、この科目で取り上げる内容を列挙する（順不同）。

1. 学校教育をめぐる諸課題への理解（廣・志賀）
2. 教員としての表現力（狩野・志賀）
3. 教材開発・発掘（廣坂・志賀）
4. 単元の指導計画と授業の実際（廣坂・志賀）
5. 教育実践記録の読解と授業実践力の向上（狩野・志賀）
6. 教育実践映像の解釈と授業実践力の向上（狩野）
7. 教材開発・発掘による学習指導案の作成（廣坂）
8. 教材開発・発掘による模擬授業の実施（廣坂・狩野）
9. 模擬授業の省察（廣坂・狩野・志賀）
10. 学校参観（狩野・志賀）
11. 中学校における生徒の実情と教員の指導力（狩野・志賀）
12. 教育実習校訪問（狩野・志賀）
13. 教育実習の事後指導（狩野・廣坂・志賀）
14. 教育実習記録の制作（狩野）
15. まとめ（狩野）

実際の内容と事前事後指導の日程は、初回に提示する。

評価

各自の個別学修として行う文献読解等の授業外学習成果（2割）及び、事後省察結果（8割）を総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】使用するテキスト、プリント等を個別学修し、概要を把握し、疑問点を析出後、その内容を追究した個別学修記録を作成する。

【事後学修】授業内に学修したこと、学外での参観等の経験を省察し、事後記録を作成する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業中に指示する。プリントを配布する。

【推薦書】学習指導要領解説編「社会」、その他授業中に紹介する。

【参考図書】授業中に紹介する。

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

「教職に関する科目」の必修科目で、英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳや教科関連科目によって習得してきた知識・理論・方法論を踏まえる。

科目の概要

実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。

学修目標（＝到達目標）

この指導により参観実習および教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

- (1) 教育実習オリエンテーション
- (2) 実習時における勤務・サービスの心得
- (3) 実習記録の作成法
- (4) 配当科目についての最終的な指導案作成
- (5) 実習校訪問

2. 中間指導

- (1) 前期実習を振り返っての反省会
- (2) 実習日誌の中間提出
- (3) 後期実習に向けての指導

3. 事後指導

- (1) 教育実習総括反省会の実施
- (2) 実習校訪問

評価

授業への参加、教材研究や模擬授業課題の状況、教員としての心構えの理解や授業運営能力などについて評価を行う。評価は、模擬授業40点、教材研究20点、レポート20点、実習20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】模擬授業の教案作成・教材作成（最低2時間）

【事後学修】模擬授業のコメントを受け、教案を修正する（最低30分）

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科教育法や教職関連科目等によって修得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえたうえで、実際に教育実習を行うにあたって具体的な事前事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

内容

1. 事前指導

(1) 教育実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

2. 事後指導

(1) 教育実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職関連科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	田中 和江、名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「家庭科」(3 週間以上の実習期間の者を対象とする) 前期実習 (選択) である。

科目の概要

1 . 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2 . 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標 (= 到達目標)

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

内容

協力校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修* , 選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/ 中学校教諭一種免許状（社会）/ 高等学校教諭一種免許状（公民）/ 高等学校教諭一種免許状（英語）/ 中学校教諭一種免許状（英語）/ 高等学校教諭一種免許状（福祉）/ 高等学校教諭一種免許状（家庭）/ 中学校教諭一種免許状（家庭）/ 高等学校教諭一種免許状（保健）/ 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職科目、教職関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、実際に学校現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力を身に着けることをねらいとする。なお本科目は、教育免許状に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に相当する。

科目の概要

これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知すること

学修目標（=到達目標）

上記の内容・課題の到達である。

内容

教育実習校における3週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

教育実習校からの評価資料60%、研究授業実践状況20%、「実習日誌」等の資料20%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前準備】実習に向けて健康管理を十分に行い、学んだことが発揮できるよう事前学習を行うこと

【事後学修】実習先の校長先生はじめ、生徒にも感謝を込めてお礼状を発送し、実習記録や出勤簿等の事後処理を確実に行うこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】教育実習校で各自使用する教科書

【推薦書】必要に応じて、適宜指示する

科目名	教育実習		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子、志賀 廣夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 教育実習の本実習を行う。中高の教員免許状を取得する場合、原則として本学が連携する六市(新座、志木、朝霞、和光、東久留米、清瀬)において教育実習を行う。本科目は、中、高の教員免許を主に取得する場合は、教育実習とともに履修し、教育実習を行うことが必要である。

科目の概要 中、高における教育実習(本実習)は、各学校の校長、副校長(教頭)、指導担当教諭の指導の下実施するが、本学における教育実習担当となる教職科目の担当教員や教科科目の担当教員の指導の下、教育実習 において事前指導を受けることになる。したがって、本実習に参画する前に教育実習 において事前指導を受け、本実習での心構え等をしっかりと学んでいることが必要である。なお、他校種の教員免許を主とする場合はこの科目は選択科目となる。

学修目標(=到達目標) 教育実習において教科指導はもとより、学級担任として学級経営を展開する力をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各教科の授業だけでなく、各領域の授業や特別活動などにも積極的に関わることが必要である。特に、中、高では、生徒会活動や部活動が重要な指導の機会である。こうしたことにも関心を持ち、目標を持って実習に参画し、実習校での指導を受けることが肝要である。本実習においては、複数回の研究授業を自ら積極的にを行い、事前の教材研究、事中の授業、事後の検討会等において、先輩方からの指導を積極的に受けるようにする必要がある。

内容

教育実習校における指導が中心であり、各学校の指示により教育実習を行う。

1. ガイダンス 担当: 志賀、廣坂、狩野

各学校に大学の担当教員とともに挨拶に出向き、教育実習全般についての諸連絡、諸注意を受け、教育実習を向かえるまでに必要な準備等を整えることになる。

2. 教育実習 担当: 志賀、廣坂、狩野

すべては、学校教育現場で勤務する教員と同様である。中・高教員免許状を取得する学生は、教育実習 に加えて、教育実習 の履修が必要である。他校種の免許を主とする学生は、教育実習 に加えて、本科目により、教育実習を経験する。

3. 教育実習中 担当: 志賀、廣坂、狩野

教育実習の手引きを熟読し、自らすすんで実習に参加することが大事である。研究授業は、自ら進んで行き、事前研究、事中研究、事後研究等、先輩方からの指導を積極的に受けることが必要である。

4. 成績 担当: 志賀、廣坂、狩野

成績は、教育実習校の評価と、大学での評価を総合する。したがって、予めどのような観点で、評価が行われるのか、自己評価をしてみるにより、教育実習に追究すべき、自己の克服課題、目標をつくっておくことが必要である。

5. 事後指導 担当: 志賀、廣坂、狩野

教育実習後は、教育実習 の担当教員とともに、実習を総括し、自らの実習を省察する。履修カルテには、その概要を記しておく。

評価

教育実習校での評価(5割)大学での評価(5割)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教育実習 で学修した内容を省察し、必要な文献を読み、概要をまとめる。教育実習校の使用教科用図書を購入し、事前学修する。

【事後学修】教育実習 での自己指導に備え、実習ノートを整理するとともに、実習の成果を省察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは教育実習校の指示により、該当する教科用図書等を手に入れておく。

【推薦書】教育実習の担当指導教員から指示を受ける。

【参考図書】同上

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*,選択
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の前期実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）前期実習（選択）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

内容

協力校における3週間以上の参観実習および教壇実習からなる授業担当による教育実習を行い、専門教科の教授法だけでなく、ホームルーム等を通じてクラス管理のノウハウも学ぶ。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当する授業の準備に最低2時間

【事後学修】実習ノートの整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備に最低2時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校の指示に従い、該当する教科用図書等を事前に手に入れておく。

【推薦書】

【参考図書】

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	選択, 必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科関連科目・教科教育法，教育実習 で修得したことをふまえて，教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに学修した教科，授業方法等に関する知識を実践的な知識に変換し，教員を目指す者としての実践的能力をつける。学校現場での実際の勤務経験をとおして自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における 3 週間以上の授業担当による教育実習を行う

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】 3 年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教育実習		
担当教員名	田中 和江、名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は、教員免許法に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「家庭科」（2週間の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

1. 教科関連科目・教科教育法、教育実習 で修得してきたことをふまえて、教育実習 では実際に授業を担当する。これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

2. 学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（=到達目標）

教育実習を通して、教職に関する理解を深め、教員としての資質を見極める。

内容

協力校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】実習校の指示に従う。

【事後学修】実習校の指示に従う。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

科目名	教育実習		
担当教員名	太田 真智子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

実際に学校現場で授業を担当する。教職科目、教職関連科目、教育実習 で習得してきた内容をふまえて、実際に学校現場で授業を担当し、教職をめざす者としての総合的力量を身に着けることをねらいとする。なお本科目は、教育免許状に定める「教育実習」のうち、高等学校一種「福祉」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）の増加単位（選択）の2単位分に相当する。

科目の概要

これまで習得してきた教科・授業方法等に関する知識を主体的・実践的なレベルに転換し、学校現場での実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性や能力を自己覚知すること

学修目標（=到達目標）

上記の内容・課題の到達である。

内容

実習校における2週間の授業担当による教育実習を行う

評価

実習に対する意欲・関心・態度を50点及び実習先の実習評価を50点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前準備】実習に向けて健康管理を十分に行い、学んだことが発揮できるよう事前学習を行うこと
- 【事後学修】実習先の校長先生はじめ、生徒にも感謝を込めてお礼状を発送し、実習記録や出勤簿等の事後処理を行うこと

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- 【教科書】教育実習校で各自使用する教科書
- 【推薦書】必要に応じて、適宜指示する

科目名	教育実習		
担当教員名	狩野 浩二、廣坂 多美子、志賀 廣夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状(情報) / 中学校教諭一種免許状(社会) / 高等学校教諭一種免許状(公民) / 高等学校教諭一種免許状(英語) / 中学校教諭一種免許状(英語) / 高等学校教諭一種免許状(福祉) / 高等学校教諭一種免許状(家庭) / 中学校教諭一種免許状(家庭) / 高等学校教諭一種免許状(保健) / 中学校教諭一種免許状(保健)		

ねらい(科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格 教育実習の本実習を行う。中高の教員免許状を取得する場合、原則として本学が連携する六市(新座、志木、朝霞、和光、東久留米、清瀬)において教育実習を行う。本科目は、中、高の教員免許を主に取得する場合は、教育実習とともに履修し、教育実習を行うことが必要である。

科目の概要 中、高における教育実習(本実習)は、各学校の校長、副校長(教頭)、指導担当教諭の指導の下実施するが、本学における教育実習担当となる教職科目の担当教員や教科科目の担当教員の指導の下、教育実習 において事前指導を受けることになる。したがって、本実習に参画する前に教育実習 において事前指導を受け、本実習での心構え等をしっかりと学んでいることが必要である。なお、他校種の教員免許を主とする場合はこの科目は必修となる。

学修目標(=到達目標) 教育実習において教科指導はもとより、学級担任として学級経営を展開する力をしっかりと身につける必要がある。そのためには、各教科の授業だけでなく、各領域の授業や特別活動などにも積極的に関わることが必要である。特に、中、高では、生徒会活動や部活動が重要な指導の機会である。こうしたことにも関心を持ち、目標を持って実習に参画し、実習校での指導を受けることが肝要である。本実習においては、複数回の研究授業を自ら積極的に行い、事前の教材研究、事中の授業、事後の検討会等において、先輩方からの指導を積極的に受けるようにする必要がある。

内容

教育実習校における指導が中心であり、各学校の指示により教育実習を行う。

中・高の教員免許を取得する場合は、この科目とともに教育実習 を履修すること。

他校種の免許を主とする場合は、この科目だけが必修となる。

1. ガイダンス 担当:志賀、廣坂、狩野

各学校に大学の担当教員とともに挨拶に出向き、教育実習全般についての諸連絡、諸注意を受け、教育実習を向かえるまでに必要な準備等を整えることになる。

2. 教育実習 担当:志賀、廣坂、狩野

すべては、学校教育現場で勤務する教員と同様である。中・高教員免許状を取得する学生は、教育実習 に加えて、教育実習 の履修が必要である。他校種の免許を主とする学生は、教育実習 に加えて、本科目により、教育実習を経験する。

3. 教育実習中 担当:志賀、廣坂、狩野

教育実習の手引きを熟読し、自らすすんで実習に参加することが大事である。研究授業は、自ら進んで行い、事前研究、事中研究、事後研究等、先輩方からの指導を積極的に受けることが必要である。

4. 成績 担当:志賀、廣坂、狩野

成績は、教育実習校の評価と、大学での評価を総合する。したがって、予めどのような観点で、評価が行われるのか、自己評価をしてみるにより、教育実習に追究すべき、自己の克服課題、目標をつくっておくことが必要である。

5. 事後指導 担当:志賀、廣坂、狩野

教育実習後は、教育実習 の担当教員とともに、実習を総括し、自らの実習を省察する。履修カルテには、その概要を記しておく。

評価

教育実習校での評価（5割）大学での評価（5割）とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教育実習 で学修した内容を省察し、必要な文献を読み、概要をまとめる。教育実習校の使用教科用図書を購入し、事前学修する。

【事後学修】教育実習 での自己指導に備え、実習ノートを整理するとともに、実習の成果を省察する。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】テキストは教育実習校の指示により、該当する教科用図書等を手に入れておく。

【推薦書】教育実習の担当指導教員から指示を受ける。

【参考図書】同上

科目名	教育実習		
担当教員名	向後 朋美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Dクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教科関連科目・英語科教科教育法Ⅰ～Ⅳ・教育実習 で修得してきたことをふまえる。

教員免許法に定める「教育実習」のうち、中学校一種「英語科」の実習（必修）、高等学校一種「英語科」（3週間以上の実習期間の者を対象とする）実習（必修）である。

科目の概要

学校現場での、実際の勤務経験を通して、自身の教職についての適性を見極める。

学修目標（＝到達目標）

これまでに習得してきた教科、授業方法等に関する受動的な知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力をつける。

内容

協力校における2週間の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料80点、及び「教育実習日誌」等の資料を20点とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】担当する授業の準備に最低2時間

【事後学修】実習ノートの整理、授業後のプリント、小テスト、持ち越した質問の回答の準備に最低2時間

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】実習校の指示に従い、該当する教科用図書等を手に入れておく。

科目名	教育実習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	0Eクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (情報) / 中学校教諭一種免許状 (社会) / 高等学校教諭一種免許状 (公民) / 高等学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 高等学校教諭一種免許状 (福祉) / 高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 高等学校教諭一種免許状 (保健) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

教科関連科目、教科教育法、教育実習、で修得したことを踏まえて、教育実習では実際に授業を担当する。これまでに学修した知識を実践的な知識に変換し、教員を目指す者としての実践的能力ををつける。さらに学校現場での実際の勤務経験を通して自身の教員としての適正を見極める。

内容

教育実習校における2週間以上の授業担当による教育実習を行う。

評価

実習校からの評価資料及び「教育実習日誌」等の資料に基づき評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自での復習が必要となる。

教科書・推薦書 (著者名・書名・出版社名)

授業の際に指示する。

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	岩井 雄一、坂口 智、狩野 浩二、松岡 敬明 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	2Aクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教職生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

(i)使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、(ii)社会性や対人間関係能力に関する事項、(iii)生徒理解や学級経営に関する事項、(iv)教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（=到達目標）

将来教員になる上で必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション、これまでの教職課程の振り返る（講義、全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容、子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点、社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション、レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）
7	現在の生徒像から見た望ましい学級経営案の検討（グループ討議・イベント企画）
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解（グループ調査演習・ロールプレイ）
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション、レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義、グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ

評価

評価 レポート課題（3回程度）、プレゼンテーション、討議におけるパフォーマンスを総合的に評価し、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】各教科の学習指導要領、教科書

科目名	教職実践演習（中・高）		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	2Bクラス
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（情報）/中学校教諭一種免許状（社会）/高等学校教諭一種免許状（公民）/高等学校教諭一種免許状（英語）/中学校教諭一種免許状（英語）/高等学校教諭一種免許状（福祉）/高等学校教諭一種免許状（家庭）/中学校教諭一種免許状（家庭）/高等学校教諭一種免許状（保健）/中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

教職課程での学びの集大成として、将来教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、教員生活を円滑にスタートするために必要な演習を行う。

科目の概要

教員として 1) 使命感や責任感、教育的愛情に関する事項 2) 社会性や対人間関係能力に関する事項 3) 生徒理解や学級経営に関する事項 4) 教科内容等の指導力に関する事項で構成する。

学修目標（=到達目標）

将来教員になる上で、必要となる課題の発見ができ、その解決に必要な知識・技能を身につける。

内容	
1	オリエンテーション これまでの教職課程の振り返り
2	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（レポート）
3	教育に関する問題点・自らの課題を発表する（プレゼンテーション）
4	教育に関する問題点・解決策を討議する（討議）
5	生徒の生活環境・教育環境を知る（現地調査）
6	生徒指導に関わる現代的な課題の理解と対応（発表 討議）
7	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義 討議）
8	教育実習の振り返りと教科の評価を考える（講義 討議）
9	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（教職経験者による講義）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（現地調査）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	成果の発表 まとめ

評価

レポート課題、プレゼンテーション、討議における貢献度を総合的に評価して、60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーション、模擬授業に必要な資料の準備をする

【事後学修】学修した内容を、学校現場でいかせるようにまとめをする

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】【推薦書】【参考図書】

適宜指示する。

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子、井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 教育職員である栄養教諭実習一種免許状を取得するために必要となる科目です。小学校あるいは中学校における栄養教育実習「栄養教諭実習」のための事前・事後指導を中心にすすめていきます。栄養教育実習「栄養教諭実習」（通年科目）は、教育実習施設の受け入れ時期によって4年次のいずれかの時期になるため、この科目も連動しての開講となります（4年次通年科目）。

科目の概要 栄養教育実習の始まる前に、教育実習の意義や内容を理解し、教育職員としての栄養教諭の職務内容を明確化します。知識や技術を再確認して、意欲的に教育実習に取り組むことができる自信を導いていきます。また、教育実習後には、実習での学びを整理し、問題点や今後の課題を抽出し、報告をまとめます。最後に、今後の栄養教諭の職務活動の展開を考えていきます。

学修目標（=到達目標） （1）教育職員としての自覚を持つ （2）対象となる児童・生徒に必要とされる適切な指導案の作成や、媒体・教材の作成できる （3）実施した栄養教育実習に関して発表や討議をし、よりよい「食に関する指導」の提案や立案につなげることができる の3点です。

内容			
1	栄養教育実習	事前指導	栄養教育実習の意義・目的
2	栄養教育実習	事前指導	学校の現状と課題、求められる資質や能力
3	栄養教育実習	事前指導	学習指導の工夫、実践的指導力
4	栄養教育実習	事前指導	授業研究、教科指導のとらえ方
5	栄養教育実習	事前指導	意欲、目標の明確化と心構え
6	栄養教育実習	事前指導	実習日誌の記録法や指導案の立案ポイントの理解
7	栄養教育実習	事前指導	教育実習校の実習計画の把握
8	栄養教育実習	事前指導	指導案・媒体の作成
9	栄養教育実習	事前指導	模擬
10	栄養教育実習	事前指導	指導案・媒体の作成
11	栄養教育実習	事前指導	模擬
12	栄養教育実習	事後指導	気づきのまとめ
13	栄養教育実習	事後指導	教育実習報告会準備
14	栄養教育実習	事後指導	教育実習報告会
15	まとめ		栄養教諭の職務活動の今後の展開を考える

事前・事後指導への参加態度30点、指導案作成への取り組み40点、提出課題レポート30点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書の該当する章をよく読みましょう。さらに、栄養教諭実践論、栄養教諭実践論で配布されたプリントなどの復習をしておきましょう。

【事後学修】教育職員としての視点を持つことを、常に意識しておきましょう。その上で、栄養教諭として求められることを明確にし、提供すべき正しく新しい情報を自ら収集しておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著　〔栄養教諭のための学校栄養教育論〕　医歯薬出版

【推薦書】金田雅代編著　〔栄養教諭論　理論と実際〕　建帛社

【参考図書】笠原賀子、岩間範子、香川明夫、松下広美著　〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕　医歯薬出版

科目名	栄養教諭実習		
担当教員名	益子 京子、井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格 本科目は、教育職員である栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目で、「栄養教諭実習」での事前指導が前提となります。実施時期（4年次のいずれかの時期）ならびに実習内容は実習施設校によって異なりますが、いずれにおいても、教育現場である小学校や中学校での実際を観察、体験することで、教育職員としての知識や技術を確実に身につけていきます。

科目の概要 実習施設校である小学校や中学校での1週間の教育実習を行います。学校現場での職務について理解を深め、学校給食やその他の特別活動、各教科における担任や各教科担当者の教育活動、栄養教諭の教育活動を経験する中で、食の指導のあり方を学びます。

学修目標（＝到達目標）（1）教員に関する理解を深め、その責任を理解する（2）成長過程にある児童・生徒の特徴を把握し、誠意をもって接する姿勢を持つ（3）大学で学んだ理論的、技術的な学習成果を実践して体得する（4）実践に伴う反省を欠かさず、次の実践に活かすための自己研鑽を積む必要性を理解する の4点とします。

内容

1	オリエンテーション（指導教諭から学校経営、校務分掌、サービスなどの説明）
2	学校給食・栄養教育の現状把握
3	「食に関する指導」の全体計画の理解
4	個別的な相談、指導の実習～相談・指導の場の観察実習・参加実習
5	担任による学級活動（給食の時間）における指導の観察実習・参加実習
6	～給食放送指導・配膳指導・後片付け指導など～
7	生徒集会、委員会活動、クラブ活動、学校行事における指導の観察実習・参加実習
8	担任と栄養教諭による給食の時間での指導の観察実習・参加実習
9	担任と栄養教諭によるその他の特別活動における栄養教育の観察実習・参加実習
10	教科担当者と栄養教諭による各教科における指導の観察実習・参加実習
11	特別活動や各教科における授業実習の指導案作成・実施・評価
12	食に関する指導の連携・調整の実習～校内における連携・調整の役割～
13	食に関する指導の連携・調整の実習～家庭・地域との連携・調整の役割～
14	研究授業の指導案作成・実施・評価
15	研究授業ならびに教育実習の反省とまとめ

評価

実習期間中は毎日記録を行い、実習終了後に施設校長からの評価を得て期日までに提出しましょう。実習校の教育実習評価票の結果を60点、教育実習ノートの記録を40点とし、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】栄養教諭実習での事前指導の内容を復習し、確認しておきましょう。

【事後学修】教育実習ノートを整理し、観察実習、参加実習、授業実習、そして研究授業での学びをそれぞれまとめておきましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著〔栄養教諭のための学校栄養教育論〕医歯薬出版

【推薦書】金田雅代編著〔栄養教諭論 理論と実践〕建帛社

【参考図書】笠原賀子 岩間範子 香川明夫 松下広美〔栄養教諭を目指す栄養教育実習ノート〕医歯薬出版

科目名	養護実習		
担当教員名	齋藤 千景、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	1
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

養護実習開始にあたり、教育職員免許法による養護教諭の免許取得に必要なとなっている「養護に関する科目」、「教職に関する科目」により、これまで学んできた知識やその方法を再度確認することや、心理学領域で学習してきた知識の活用が実習時には大きな効果をもたらすことを認識させるために、ロールプレイングを取り入れた指導場面を設定するなどして養護教諭としての役割と責任を自覚させることを目指すものである。

学修目標は、実習記録簿の扱い方や記入方法等を理解させる。児童生徒を目の前にした対応時に的確な判断と対応に、自分の持っている知識や技能を発揮し適切な対応でなければならないことを認識させる。連携の方法や必要性を再確認させる。

内容

1．事前指導

(1) 養護実習オリエンテーション

- ・実習の目的
- ・実習における勤務等の心得
- ・実習記録の作成法

(2) 実習中における課題の設定について

(3) 実習校訪問について

(4) ロールプレイングによる模擬演習

2．事後指導

(1) 養護実習報告会

- ・実習の総括
- ・課題取組内容とその成果の発表

(2) 実習校訪問

(3) 実習記録簿の提出

評価

提出物、報告会などの授業態度等を総合的に評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の学修を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：「学校保健実務必携」（学校保健・安全実務研究会 編著 第一法規）

科目名	養護実習		
担当教員名	齋藤 千景、鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	4
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

大学において学習した理論・技術を基礎として、実際の現場に臨んで実地に実習することにより、学校教育全体を理解し、学校保健活動と養護教諭の職務が教育活動の一環として位置付けられていることを認識しながら、養護教諭としての職務の実際にかかわり、具体的な方法や処理の仕方等を身につけることを目指すものである。

学修目標は、実習校の教育目標などから学校の経営方針やその特徴を知る。 児童生徒への対応や判断方法など養護教諭としての執務に関する体験。 児童生徒への指導の体験。 事後措置の方法の体験。 他の教員や保護者等との連携方法の体験。

内容

1. 学校教育活動の理解と学校保健の位置づけとその組織の理解
2. 学校運営及び教職員の職務の理解
3. 教職員間の連携や相互協力の機会、方法についての理解
4. 養護教諭の役割と保健室経営について実務を通じた理解
5. 児童生徒の心身の健康実態及び健康課題の把握
6. 児童生徒の心身の健康課題への対応とその措置
7. 地域等の関係機関との連携について
8. 学校保健計画や学校安全計画の理解とその活動
9. 集団による保健指導等の実際
10. 教育者としての倫理観の体得について

評価

実習校から提出される勤務記録と実習評価票の結果及び実習記録簿を総合して評価する。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】3年生までの教職科目の修得を前提に実施するため、各自で復習をしておく必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

推薦書：（学校保健・安全実務研究会編著 学校保健実務必携 第一法規）

「養護に関する科目」の中で養護教諭の職務等に関わる内容を整理したノートを持参すること

科目名	教職実践演習（栄養教諭）		
担当教員名	岩井 雄一、坂口 智、狩野 浩二、松岡 敬明 他		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

教職課程の総仕上げとして行われる授業です。学生のみなさんが教職に関する科目、教科に関する科目、教育実習、その他で学んだ学修内容を統合して、それぞれが教員として最小限必要となる資質や能力を身につけたかどうかを確認し、不足しているところがあれば、それを補う勉強をします。

履修カルテに基づいて、学生のみなさんと個人面談を行います。その上で、どのような資質や能力が形成されてきたか、不足している資質や能力はどのようなものかを確認し、その不足した資質や能力を補うような勉強を行います。内容によっては、講義や講演を聴いたり、近隣の学校での研究会に参加したり、模擬授業や教材研究を行うこともあります。学生のみなさんひとりひとりに対応した演習を実施します。

教員として最小限必要となる資質や能力を身につけることが目標です。

内容	
1	オリエンテーション，これまでの教職課程を振り返る（講義，全体討議）
2	教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
3	教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）
4	教育に関する問題点・自らの課題を発見する（現地調査）
5	自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）
6	生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習，事例研究）
7	現在の生徒像からみた望ましい学級経営案の検討
8	生徒の進路指導に関わる社会情勢の調査と理解
9	学級経営案を発表する（プレゼンテーション，レポート）
10	教育実習の振り返りと教科の指導力を考える（講義，グループ討議）
11	教育内容の基本的事項の確認（個人演習）
12	教育方法の基本的事項の確認（個人演習）
13	模擬授業
14	模擬授業
15	まとめ（レポート）

評価

演習・実習への参加態度（4割）、教職履修カルテ（4割）、講義時間中のミニレポート（2割）を総合的に評価して、60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】シラバスを参照し、事前に該当部分について報告や問題提議をする準備をしておく。

【事後学修】グループ討議や演習等の内容について取りまとめをし、教師としての自分の適性を考える。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

必要に応じて随時紹介します。

科目名	教職実践演習（養護教諭）		
担当教員名	綿井 雅康、齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性質

教職課程（養護教諭）の教職に関する科目での必修科目であり、養護実習を終えたことを前提として履修し学習する科目である。

科目の概要

教員として、使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、社会性や対人間関係能力に関する事項、生徒理解や学校・学級経営に関する事項、養護教諭としての指導力に関する事項で構成する。また、教職・養護に関する科目を担当する教員が連携して、学生の補完すべき課題の様相や養護教諭としての実践力向上への取り組みについて共通理解と情報共有を図りつつ、指導を行う。

学修目標

教職課程での学びの集大成として、受講生の履修履歴に基づき、教員になる上での自らの課題の発見、不足している知識や技能の補完と定着をねらいとして、養護教諭としての実践力向上に必要な演習を行う。

内容

第1回：オリエンテーション，これまでの教職課程を振り返る（講義，全体討議）

第2回：教職の意義・役割・職務内容，子どもに対する責任について理解する
（教職勤務経験者による講義）

第3回：教育に関する問題点，社会からの要請を考える（調査演習・グループ討議）

第4回：教育に関する問題点をふまえ自らの課題を発見する（現地調査）

第5回：自己課題とテーマを発表する（プレゼンテーション，レポート）

第6回：児童生徒の生活環境・教育環境を知る（グループ調査演習、事例研究）

第7回：生徒指導に関わる生活環境・社会状況に関する現代的課題の理解
（グループ調査演習、事例研究）

第8回：児童生徒の現代的な健康課題の理解とその解決への取り組みの検討
（グループ調査演習、事例研究）

第9回：保健室経営計画に関する講義と演習（講義と演習、全体・グループ）

第10回：現代的な健康課題を踏まえた保健室経営計画案の検討（演習・討議、ロールプレイ）

第11回：教育実習の振り返りと養護教諭としての指導力・実践力を考える（講義，グループ討議）

第12回：教育内容の基本的事項の確認（個人演習）

第13回：模擬授業、模擬場面指導

第14回：模擬授業、模擬場面指導

第15回：成果の発表（発表、全体）

評価

演習での学習活動及び提出物により評価を行う。評価の基準は、各自が設定した課題に対する取り組み状況とその成果が、

現場の実情に即して資質の向上につながっているという点である。

授業外学習

【事前予習】課題指示に沿って自らの学びや体験を客観的に整理すること

【事後学修】学修した内容を、学校現場でどのように実践するのかを考える

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

適宜指示する。

科目名	教育実践論		
担当教員名	綿井 雅康		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Aクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会）／中学校教諭一種免許状（英語）／中学校教諭一種免許状（家庭）／中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は中学校教諭一種免許状（英語）取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

科目の概要

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

学修目標

(i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
(ii)配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

2.介護等体験

3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

(1) 授業への参加度 50%，(2) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価 50%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】手引きの内容についてよく読んでおくこと。

【事後学修】実習後の振り返りをすぐにしておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育実践論		
担当教員名	名倉 秀子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Bクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状（社会） / 中学校教諭一種免許状（英語） / 中学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

科目の概要

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

学修目標（=到達目標）

- (i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します。
- (ii)配当先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1.事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

2.介護等体験

3.事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

下記の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 授業への参加度 50%
- (3) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

授業外学習

【事前予習】討議やプレゼンテーションに必要な事前資料の準備

【事後学修】振り返りのためのレポート作成

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	教育実践論		
担当教員名	安達 一寿		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	0Cクラス
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	中学校教諭一種免許状 (社会) / 中学校教諭一種免許状 (英語) / 中学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (保健)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

この科目は中学校教諭一種免許状取得のための必修科目です。教科または教職に関する科目の1つで、「介護等体験」実習とその事前事後指導を含みます。

「介護等体験」の対象となる社会福祉サービスを利用している方々や社会福祉施設及び機関に対する基本的認識を得ます。

- 。(i)介護等体験の事前指導をとおして、社会福祉教育の概要をまなび、そこで必要とされる基本的な技術を体得します
- 。(ii)配属先の実習施設での実習をとおして、社会福祉従事者の基本姿勢を学びます。(iii)事後指導をとおして、体験した内容の振り返りを行い、基本的な認識を醸成します。

内容

1. 事前指導

- (1) 社会福祉教育について
- (2) 対人援助について
- (3) 介護等体験の目的について
- (4) 介護等体験における心構え
- (5) 自己目標をたてる
- (6) 社会福祉施設と福祉サービスについて
- (7) 特殊教育と障害児者について
- (8) 配属先施設についての自己学習
- (9) 社会福祉施設の専門職について
- (10) 社会福祉従事者の基本姿勢
- (11) コミュニケーション理解
- (12) 車椅子、食事介助、移乗等体験

2. 介護等体験

3. 事後指導

- (1) 介護等体験における個別振り返り
- (2) 介護等体験におけるグループによる振り返り

評価

次の割合で点数化し、60%以上の得点を合格とする。

- (1) 授業への参加度 50%
- (2) 介護等体験施設の「記録ノート」等の資料に基づく評価： 50%

授業外学習

【事前予習】実習施設に関する概要を理解しておく、さらに社会福祉に対する理解も深める

【事後学修】表面的な体験や観察だけではなく、支援することの意味や意義について考察する

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業内で介護等体験の手引きを配布します。

科目名	基礎調理学（実習を含む）		
担当教員名	木村 靖子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭） / 中学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

日常的に利用されている食品をおいしく安全に調理するために、食品の特性や調理のプロセスでみられる食品の変化、調理操作の意味について科学的に理解することを目的とする。

科目の概要

人は毎日、様々な食品を調理・加工し、おいしく安全に食べることにより、心身の健康を維持し、社会的な活動を行っている。この科目は、日常的に利用されている食品をおいしく安全に調理する方法についての基礎的な知識を学ぶために、毎回異なる食品をとりあげ、食品の特性や調理の過程で見られる食品の変化や行われている調理操作の目的と意義について解説する。さらに、基礎的知識の確実な習得のために調理実習を数回行う。

学修目標（＝到達目標）

1. 食品材料や調理操作の基礎的知識を理解する。
2. 調理による食品の科学的な変化について学び、食品をおいしく調理するための方向性を理解する。
3. 食事設計の意義と献立作成の基本を理解する。

内容	
1	調理学の意義、食事設計(献立作成)
2	食物の嗜好性(食物のおいしさの要因と評価)
3	調理操作の特性(加熱調理操作、非加熱調理操作)
4	食品素材と調理特性(米、小麦)
5	食品素材と調理特性(いも、豆、野菜)
6	食品素材と調理特性(肉・魚介)
7	調理実習：白飯、みそ汁、魚のてりやき、和え物
8	調理実習：パン、スープ、ハンバーグステーキなど
9	食品素材と調理特性(卵)
10	食品素材と調理特性(乳・乳製品、油脂)
11	食品素材と調理特性(果実、藻類、ゲル化剤)
12	調理実習：炊き込みご飯、茶碗蒸し、筑前煮
13	調理実習：マカロニグラタン、サラダ、コーヒー
14	調理実習：白飯、麻婆豆腐、凉拌茄子、? 豆腐
15	まとめ

評価

ペーパーテスト70点、レポート20点、授業への参加度10点で評価を行い、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】教科書をよく読み、解らない点は参考書などで自分なりに調べる。

【事後学修】授業を聞きながら記録したノートと教科書、プリントなどをもとに復習し理解を深める。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

畑江敬子・香西みどり編『スタンダード栄養・食物シリーズ6 / 調理学 第2版』 東京化学同人

【参考図書】

金谷昭子編著 『食べ物と健康 調理学』 医歯薬出版

安原安代・柳沢幸江共編『調理学 健康・栄養・調理』アイ・ケイコーポレーション

科目名	家庭電気・機械		
担当教員名	松尾 政弘		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状（家庭）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

高等学校教諭一種免許状「家庭」を取得するために必要な「教科に関する科目」の必修科目である。

科目の概要

家庭電気・機械の内容を基礎編と応用編に分けその基礎がどのように生活機器に応用されているかを理解させる。その中で熱・光・動力の特性に生活の場で使用するために衣・食・住に使用される機器類は各種エネルギー変換や材料・形状変換を行って生活機器類が作られているかを解説する。また、これらの機器にはエレクトロニクスやコンピュータが近年急速に普及している現状がありこれらの情報機器の賢い活用についても理解させる。さらに家庭用機器の整備と危害防止についても製造物責任法の施行や電気事業法の改正について述べ、生活機器関連法規も解説する。

学修目標（＝到達目標）

家庭生活の中で使用されている家庭機械・電気、情報機器に関する基礎的な知識と技術を理解するとともに家庭生活をよりよくしようとする能力を高めるとともに家庭用機器の整備と安全と環境についても理解と学習をさせる。

内容	
1	機構 1（機素と番い、運動の伝達、ころがり接触、歯車：歯車の種類）
2	機構 2（歯車：各種の歯車・歯車列・差動歯車、カム）
3	機構 3（ベルト伝達、索電動および鎖電動、リンク仕掛け）
4	機構 4（裁縫ミシン）
5	電気 1（電気理論）
6	電気 2（電気の応用と実践）
7	製図 1（製図用具と使い方、製図の描き方）
8	製図 2（スケッチ、被服製図、写真図）
9	工作法 1（工具：切削理論、一般工具）
10	工作法 2（工具：金工用工具、木工用工具）
11	工作法 3（工具：機械用工具）
12	工作法 4（加工作業：工作理論、木材接合法）
13	工作法 5（加工作業：紙・ゴム・セルロイドの接合、金属接合法、塗装法）
14	情報社会と家庭電気・機械について
15	まとめ

評価

平常点・授業への取り組み30%、期末試験70%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】家庭内にある身近な機器等の役割やしくみを学ぶことを踏まえ、情報の収集等しておくこと。

【事後学修】授業の際に配布したプリント等を活用して復習すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】プリントを配布する

科目名	解剖生理学特論		
担当教員名	松葉 剛		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

養護教諭免許取得のための必須科目として「解剖生理学」を広く標準的に学習した後に本科目を履修し、養護教諭が必要とする専門知識としての病態生理学について理解する。

科目の概要

学校の健康診断に関わる疾患、学校感染症、アレルギー性疾患や、小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について学ぶ。

学修目標（＝到達目標）

学校健診に関わる疾患の検査法と病態について理解する。

学校感染症の種類と症状、病態および法令について理解する。

小児科領域の疾患のうち主に学童・思春期に罹患する疾患の病態について理解する。

内容	
1	学校定期健診の検査・診察方法と疾患1（身長・体重、栄養状態、体格）
2	学校定期健診の検査・診察方法と疾患2（視力、色覚、眼、聴力、耳鼻咽喉頭、皮膚、歯）
3	学校定期健診の検査・診察方法と疾患3（結核、心臓、尿、寄生虫卵、その他）
4	学校感染症とその他の感染症
5	学童・思春期に罹患する疾患1 免疫、アレルギー、膠原病
6	学童・思春期に罹患する疾患2 循環器疾患
7	学童・思春期に罹患する疾患3 腎・尿路系疾患
8	学童・思春期に罹患する疾患4 消化器疾患
9	学童・思春期に罹患する疾患5 血液・腫瘍疾患
10	学童・思春期に罹患する疾患6 神経・筋・精神疾患
11	その他の小児の疾患1 新生児疾患
12	その他の小児の疾患2 遺伝性疾患・染色体異常
13	その他の小児の疾患3 代謝・内分泌疾患
14	その他の小児の疾患4 救急疾患
15	まとめ

評価

最終講義の際に筆記試験（80点満点）を実施し、講義への参加状況の評価（20点満点）を加え、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】解剖生理学で学んだ各臓器の形態や機能について確認しておくこと。

【事後学修】講義でとりあげた各疾患について、病態生理を理解すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】ナーシング・グラフィカ 小児看護学 小児の疾患と看護 中村友彦・編 MCメディカ出版

【推薦書】看護のための最新医学講座 第14巻 新生児・小児科疾患 監修 日野原重明 中山書店

【参考図書】養護教諭講座/10 解剖学 生理学 監修 杉浦守那 著 杉浦正輝 東山書房

科目名	児童生徒の精神保健		
担当教員名	東畑 開人		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状 / 高等学校教諭一種免許状（保健） / 中学校教諭一種免許状（保健）		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

養護教諭1種免許取得のための科目である。「精神保健」の科目区分にあり、「精神保健概論」との関連が強い。

科目の概要

児童生徒を対象としたこころのケアについて学ぶ。その際に、発達の視点を踏まえたうえでの児童生徒の問題行動・こころの病理についての理解は不可欠である。したがって、本講義では養護教員としての関わりを行うための、基礎的な知識を学び、児童生徒のケアがいかにしてなされるのかについて考えていく

学修目標（=到達目標）

- ・児童期・青年期に生じる臨床的な問題について理解する。
- ・養護教諭としての関わり方を理解する。

内容	
1	イントロダクション 子供と関わる
2	発達1 乳幼児の発達
3	発達2 母親の役割
4	発達3 学童期の発達
5	非行
6	心因性の問題
7	不登校
8	自閉症
9	学習障害とADHD
10	虐待
11	アセスメント こころを見る方法
12	ケアするための転移論
13	環境を調整する
14	スクールカウンセラーについて
15	まとめ

評価

各回のレポート提出が20点、期末テストが80点で、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】 指示したことについて調べる、考えてくること

【事後学修】 適宜紹介した文献に触れること

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特になし

【推薦書】適宜指示する

【参考図書】適宜指示する

科目名	食生活論		
担当教員名	岩本 珠美		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選択, 選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	高等学校教諭一種免許状 (家庭) / 中学校教諭一種免許状 (家庭)		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

本科目は、中学校および高等学校の家庭の教員免許状取得のための選択科目である。

科目の概要

現代社会では、健康・食事に対する考え方や価値観は多様化し、テレビや新聞、雑誌などは健康や栄養、料理、健康食品などに関する情報を競って提供している。その一方では、生活習慣が原因と考えられる疾病の罹患者の増加が問題となっている。そこで、社会の仕組みとの関わりの中で、健康の保持増進を図るための食生活はいかにあるべきかを考える。食生活の在り方を規定している要因や食生活の現状と問題点、食と健康、ライフサイクルと食生活等について学ぶ。

学修目標 (= 到達目標)

1. 食生活の構造を理解し、現代における食生活の課題を説明できる。
2. 食べ物と栄養を理解し、バランスのよい食事を提案できる。
3. ライフサイクルに適した食生活を説明できる。
4. 現代の食生活環境を理解し、今後の食生活のあり方を考えることができる。

内容

1	食生活の構造と食生活に影響を与える要因、食生活の変遷
2	食生活の現状と課題
3	食生活と健康
4	食べ物のおいしさと健康
5	食の機能と役割 (1) 主食、主菜の食べ物と栄養
6	食の機能と役割 (2) 副菜の食べ物と栄養
7	食の機能と役割 (3) 食事のバランスと評価
8	ライフサイクルと食生活 (1) 乳幼児期、幼児期の栄養と食生活
9	ライフサイクルと食生活 (2) 学童期、思春期の栄養と食生活
10	ライフサイクルと食生活 (3) 成人期、母性の栄養と食生活
11	ライフサイクルと食生活 (4) 高齢期の栄養と食生活
12	生体リズムと食生活
13	食生活と環境
14	これからの食生活
15	まとめ

評価

授業への参加度 (10%)、レポート (40%)、筆記試験 (50%) とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業で実施する内容について事前に教科書を読む(20分)。ページ等については授業で指示する。

【事後学修】授業で配布したプリントおよび教科書の要点をノートにまとめ復習する(40分)。

教科書・推薦書(著者名・書名・出版社名)

【教科書】加藤秀夫, 三好康之, 他編『まるごと学ぶ食生活と健康づくり』 化学同人

【推薦書】教室で紹介する。

【参考図書】教室で紹介する。

科目名	生徒指導		
担当教員名	柏葉 修治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

この科目は、人間発達心理学科生の教職科目の1つで、必修科目である。

科目の概要

生徒指導の意義・目的、課題、内容、方法等について、理解を深めることを目的とする。

学修目標（＝到達目標）

この授業を通じて、教師として行うべき生徒指導について、その意味、意義・重要性、指導内容、教育課程との関連性が深まり、指導の組織と計画、生徒理解の方法、進路指導等についての実践力が身につく。そのためにも、毎回、授業に出席し、しっかりと授業に積極的にかつ真剣に取り組むことが大切である。

内容

1	1.はじめに（生徒指導の意義と課題）
2	2．教育課程における生徒指導の位置づけ、生徒指導の前提となる発達観と指導観
3	3．集団指導・個別指導の方法原理、学校運営と生徒指導
4	4．教育課程と生徒指導
5	5．児童生徒の心理と児童生徒理解
6	6．学校における生徒指導体制
7	7．生徒指導における教職員の役割、基本的な生活習慣の確立
8	8．児童生徒の安全に関わる問題、いじめ問題への対応
9	9．問題行動の早期発見と効果的な指導、発達に関する課題と対応、不登校生徒への対応方法
10	10．問題行動の対処や命の教育の実践方法（とくにいじめ問題に対する取り組みの方法）
11	11．生徒指導に関する法制度等
12	12．地域社会における児童生徒
13	13．学校を中心とした過程・地域・関係機関等との連携
14	14．社会の形成者としての資質の涵養に向けて
15	まとめ

評価

授業中に課す課題への取り組みに対する授業態度（15%）、レポート（15%）、筆記試験（70%）、さらに2/3以上出席を必須条件とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】基本的には使用テキストを活用した授業であるが、1時間以上はそのテキストを事前に読み込んでおくこと。

【事後学修】授業で扱った箇所を重点的に1時間以上は復習することが望ましい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】「生徒指導提要」平成22年3月 文部科学省

【推薦書】「現場で役立つ生徒指導実践プログラム」新井肇 編著 学事出版

【参考図書】教室で紹介する

科目名	養護教諭実践論		
担当教員名	鈴木 雅子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

養護教諭の職務とされている保健管理を効果的に容易に実践できる資質を担保するために、これまで学んだ知識を基盤にしなが、必要となる実際的な事項について作成する、あるいは計画すること等について具体的に体験して学ぶものである。

科目の概要

学校教育法や学校保健安全法等に基づいた方法および技術的基準、事後処理等に関する具体的な方法、さらには保健管理をする上で必要となる計画等の作成方法について演習による体験学習をするものである。

学修目標（＝到達目標）

養護教諭の職務内容に基づいて、その具体的な方法や作成方法について学び、それぞれの方法等の留意点や活用方法を習得するものである。

内容	
1	オリエンテーション、定期健康診断実施計画の留意点とその実際
2	定期健康診断実施計画立案時の留意点とその実際
3	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（検診項目）
4	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（測定方法）
5	定期健康診断実施方法及び技術的基準とその実際（記録）
6	定期健康診断事前指導の実際
7	定期健康診断事前指導の実際
8	定期健康診断事後処理の実際（治療勧告書の作成）
9	定期健康診断事後処理の実際（管理が必要な児童生徒への保健指導）
10	学校保健計画の根拠とその留意点について
11	学校保健計画及び評価の実際
12	学校保健計画及び評価の実際
13	保健室経営計画立案時の留意点について
14	保健室経営計画及び評価の実際
15	保健室経営計画及び評価の実際、まとめ

評価

レポートおよび資料作成の提出と内容7割、演習への取組み態度3割とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】3年次前期までに履修をした専門科目を中心に、その概要を確認しておくこと。

【事後学修】これまでの学習してきた内容に、その都度内容を追加しながらポイントを理解すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】

「児童生徒等の健康診断マニュアル」平成27年度版 日本学校保健会

「養護概説」采女智津江他 少年写真新聞社

「学校保健の課題とその対応」公益法人日本学校保健会

「学校保健実務必携」学校保健・安全実務研究会 第一法規株式会社

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

人類共通の課題として国際理解、環境問題、福祉・健康・家族関係等があげられる。これらの中から養護教諭として担保しておかなければならない近年の課題について、これまでの履修科目では触れられなかった事項について、複数の教員の専門分野から指導を受け、児童生徒の健康の保持増進と健全育成を目指すものである。

学修目標は、随時配布する資料によりその内容を理解するとともに、これまで習得した知識との関連を持たせながら、授業内容の振り返り、ノートの整理をすることで、より理解を深め、養護教諭としての資質能力を高める。

内容

1	中央教育審議会答申・学校保健安全法からみる養護教諭の職務について
2	学校保健計画・安全計画、危機管理における養護教諭の役割について
3	危機管理における心のケアについて
4	保健室経営について
5	保健室経営計画の作成（演習）
6	学校医、学校歯科医、学校薬剤師の職務について
7	健康診断の実際（児童生徒の健康診断）
8	健康診断の実際（就学時健康診断 教職員健康診断）
9	学校歯科保健と健康づくりについて
10	喫煙・飲酒・薬物乱用教育について
11	児童虐待における養護教諭の役割について
12	アレルギー疾患を持つ児童生徒への対応について1
13	アレルギー疾患を持つ児童生徒への対応について2
14	学校保健にかかわる諸帳簿の整理と管理について
15	まとめ

評価

レポート、資料作成を7割、授業に対する意欲・関心・態度3割とし60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習・事後学修】

学校保健・養護概説の学修を前提として授業を進める。各自で学校保健，養護概説を復習したのちに授業に参加する必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

科目「養護概説」における教科書を使用する。その他必要に応じて、授業時に指示する。

科目名	教職演習		
担当教員名	齋藤 千景、増田 吉史		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	選必
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	養護教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教育職員免許法施行規則による養護教諭の免許取得に必要な「養護に関する科目」に位置づけられている「養護概説」の科目を中心に、これまで学んできた知識を基盤に据え、不足している知識を補いつつ、具体的な実施方法について演習を取り入れながら、養護教諭としての求められる能力の向上を目指すものである。

学修目標は、 これまでに学んだ知識と技術の確認、 いかなる条件下においてもこれまで習得した教職関係及び心理学関係の知識を活用し、養護教諭としての的確な判断のによる対応能力の育成。

内容

1	養護教諭の専門領域における職務内容について【齋藤】
2	学校教育と学校保健について【増田】
3	学校教育と関連法規等について【増田】
4	学校組織の理解について【増田】
5	学校保健と関連法規等について【増田】
6	学校保健関係者とその連携について【増田】
7	保健指導の機会と方法・評価について【齋藤】
8	保健だよりの作成（演習）【齋藤】
9	職員のメンタルヘルスについて【齋藤】
10	環境衛生管理と医薬品の管理について【齋藤】
11	子どもの現代的な健康課題とその対応について(演習)【齋藤】
12	子どもの現代的な健康課題とその対応について(演習)【齋藤】
13	子どもの現代的な健康課題とその対応について(演習)【齋藤】
14	子どもの心身の健康に関する諸統計の理解と活用方法について【齋藤】
15	まとめ【齋藤】

評価

小テスト及びレポート等提出 9 割、通常の授業態度 1 割 60 点以上合格とする。

授業外学習

【事前予習】【事後学修】 1 . 2 年 , 3 年前期の教職科目の学修を前提に授業を行う。各自で復習をして授業に臨む必要がある。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

- ・采女智津江他 「新養護概説」少年写真新聞社
- ・学校保健・安全実務研究会編著 「学校保健実務必携」 第一法規
- ・その他必要に応じて授業時に指示する

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	井上 久美子、益子 京子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 この科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要となる科目です。管理栄養士国家試験受験資格取得のための学習を前提として、小・中学校において児童・生徒へ食育を実施する栄養教諭（教職免許）とはどんな資格か、求められていることは何かを学び、栄養教諭実践論 における実際の食育の方法の学びへと展開していきます。

科目の概要 近年、児童・生徒の食生活の乱れが深刻化し、メタボリックシンドローム予備群の増加が懸念されています。栄養教諭が学校において食に関する指導を行い、児童・生徒が自ら望ましい食習慣を身につけるように育む食育は重要であり、そのために熟知しておくべき制度や背景など基礎的な内容を学習します。

学修目標 （１）栄養教諭の役割および職務内容について理解する （２）幼児、児童・生徒の栄養に係わる課題を理解する の2点とします。

内容	
1	栄養教諭とは
2	児童・生徒の栄養の指導及び管理の意義
3	児童・生徒の栄養指導及び管理の現状と課題
4	児童・生徒の食事に関する実態把握及び分析等の必要事項
5	栄養教諭の職務内容
6	栄養教諭の使命、役割
7	学校給食の意義
8	学校給食の役割
9	食生活に関する歴史
10	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる社会事情
11	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる諸制度
12	児童・生徒の栄養の指導及び管理に係わる法令
13	食事に関わる文化的変遷や特徴と栄養問題
14	国民、特に児童・生徒に関わる栄養問題
15	まとめ

評価

毎回のレポート30点、及びペーパーテスト70点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕の はじめに と 目次 を読み、また各回の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例を知りましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕 医歯薬出版

【教科書】文部科学省 〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】川戸喜美枝編著 〔栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 〕 (株)ぎょうせい

科目名	栄養教諭実践論		
担当教員名	益子 京子、井上 久美子		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	栄養教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格 この科目は、栄養教諭一種免許状を取得するために必要な科目であり、3年次前期に「栄養教諭実践論」で学習した内容を基礎とし、前提となる管理栄養士養成のための学びを加えて、具体的に応用・展開して児童・生徒へ指導する方法等を学んでいきます。栄養教育実習（栄養教諭実習、栄養教諭実習）の前段階に相当します。

科目の概要 栄養教諭の職務内容は「学校給食管理」と「食に関する指導」です。給食を生きた教材とする学校現場での食育活動の実際を学び、さらに自ら指導案と教材・資料等を作成して、授業運営の模擬を行っていきます。

学修目標は、（ 1 ）食に関する指導方法の理解 （ 2 ）食に関する指導のための指導案、教材・資料の作成法の理解 （ 3 ）食に関する指導の模擬体験による授業運営法の理解 とします。

内容	
1	「食に関する指導」の位置づけを理解する
2	学校全体で取り組む食に関する指導にかかる全体的な指導計画の作成
3	給食の時間における食に関する指導
4	家庭科、技術・家庭科における食に関する指導
5	体育科、保健体育科における食に関する指導
6	道徳、特別活動における食に関する指導
7	生活科、総合的な学習の時間における食に関する指導
8	食物アレルギー、肥満傾向などの個別指導のあり方
9	演習1 食生活学習教材・食に関する指導参考資料を活用した食に関する指導
10	演習2 食に関する指導の指導案作り
11	演習3 作成した指導案の発表，相互評価など
12	演習4 模擬授業、指導効果の評価
13	学校、家庭が連携した食に関する指導
14	学校、地域（保健所、保健センター、食生活改善推進委員会）が連携した食に関する指導
15	まとめ

評価

毎回のレポートや課題発表等50点及びペーパーテスト50点により評価を行い、総合評価60点以上を合格とします。

授業外学習

【事前予習】教科書〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕の該当する章を、事前に読んでおきましょう。

【事後学修】該当する項目についてノートを整理・作成し、さらに学校での事例報告などを検索して、一つでも多くの事例を知りましょう。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】笠原賀子編著 〔栄養教諭のための学校栄養教育論 補訂〕 医歯薬出版

【教科書】文部科学省 〔小学校学習指導要領・中学校学習指導要領〕

【推薦書】川戸喜美枝編著 〔栄養教諭は何をすべきか - 豊かな心と丈夫な体を育てる食の教育 - 〕 (株)ぎょうせい

科目名	肢体不自由教育課程論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：「肢体不自由教育概論」で学んだ内容をベースに、さらに肢体不自由教育に関する専門的事項を学ぶ。本授業では、「自立活動」の指導内容を中心に講述する。

学修目標：1) 肢体不自由教育における教育課程と自立活動の意義について理解すること，2) 自立活動の指導内容と具体的な対応について理解すること，3) 肢体不自由教育における授業研究の方法について理解することの3点である。

内容	
1	教育課程の編成と自立活動の意義
2	障害のとらえ方と自立活動
3	健康の保持
4	摂食指導 1
5	摂食指導 2
6	心理的な安定
7	人間関係の形成
8	身体の動き 1
9	身体の動き 2
10	コミュニケーション 1
11	コミュニケーション 2
12	自立活動の指導計画の作成と内容の取扱い
13	肢体不自由教育における授業研究 1
14	肢体不自由教育における授業研究 2
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（30点），最終試験（30点），毎回のリアクションペーパー（20点），授業時の参加態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】授業範囲のテキストを読んでおくこと。

【事後学修】授業で学習した内容の具体的な指導について調べ，理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【テキスト】「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編（幼稚部・小学部・中学部・高等部）」文部科学省，2009，海文堂出版株式会社，210円

【その他】必要に応じて授業で推薦する。

科目名	病弱教育課程論		
担当教員名	崎山 千尋		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	前期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

本科目は特別支援教育における病弱者（身体虚弱者を含む）に関する教育領域の科目である。

ここでは、病弱教育における教育課程について学び、他の科目での履修内容とあわせて、病弱児に 対する教育的支援について理解を深める。

科目の概要

病弱教育における教育課程について、編成における基本的な考え方とその手順、内容及び配慮事項等 について理解する。また教育課程の実施にあたって必要な、個々の病状や教育環境等に応じた個別の 指導計画の作成、指導上配慮すべき点や教材・教具の創意・工夫等について理解する。

学修目標（＝到達目標）

病弱教育における教育課程の内容、個別の指導計画作成の手順や配慮事項等について理解する。

病状や活動制限等に応じた学習活動の設定や、教材・教具の創意・工夫等の必要性を理解する。

個々の実態に応じた自立活動の目標設定と内容の選定、指導方法等について理解する。

内容	
1	病弱教育について
2	病弱教育の現状
3	病弱教育における教育課程編成（1）
4	病弱教育における教育課程編成（2）
5	個別の指導計画の作成（1）
6	個別の指導計画の作成（2）
7	病弱教育における教科等の指導（1）
8	病弱教育における教科等の指導（2）
9	病弱教育における自立活動（1）
10	病弱教育における自立活動（2）
11	情報機器等の活用
12	重複障害を有する児童生徒の教育課程
13	医療機関等、関係諸機関との連携
14	教育課程及び個別の指導計画の評価と改善
15	まとめ

評価

筆記試験70%、学修目標に関するレポート30%とし、総合評価60点以上を合格とする。

合格点に満たなかった場合は再試験を行う。

授業外学習

【事前予習】特別支援学校と小・中学校の学習指導要領について、総則、自立活動の部分を読んでおく。シラバスを参照し、各時間または全体をとおして何を学ぶのか自分の目標をもつ。

【事後学修】プリントや説明内容を再度確認して理解を深め、不明な点は質問等により理解を図る。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

授業においてプリントを配布する。

科目名	視覚障害教育概論		
担当教員名	神尾 裕治		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部 (J) - 教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修 *
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい (科目の性格 科目の概要 学修目標)

科目の性格

特別支援学校のみならず小・中学校等に在籍している見えにくい困難を覚えている幼児児童生徒に対して支援できる基礎的知識や指導方法内容を学習し、合理的配慮のできる教師を目指す。特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目

科目の概要

視覚障害とはどういうものを学び、視覚障害教育の歴史や制度を概観する。視覚障害の特性を踏まえた学習指導法(教育課程)、教材教具(点字、白杖歩行を含む)について研究し、教育現場で役に立つ知識を身につける。

学修目標 (= 到達目標)

- a 視覚障害や視覚障害教育についての基礎的な知識を理解する。
- b 視覚障害教育の特色である視覚に頼らないまたは視覚を活用した指導法を、他障害の子どもにも活用することができる。
- c 視覚障害者の生活や職業・スポーツなどに興味関心を持ち積極的に関わろうとする。

内容

1	オリエンテーション (視覚障害とは、目の機能と主な眼疾患、眼疾患による見え方の違い)
2	視機能評価 (色弱者への対応、視機能評価、視力と黒板の見え方・板書の配慮事項)
3	視覚障害乳幼児の早期支援 (視覚と認知の発達、支援内容と保護者支援、共遊玩具と触る絵本)
4	視覚特別支援学校の教育課程 (対象と就学の仕組み、準ずる教育、重複障害教育、職業教育)
5	点字の歴史と指導法 (ブライユ点字の誕生、日本訓盲点字の考案、点字の構造と体系的な指導)
6	触覚とは (触覚の弱点と利点、人間の発達と触覚、アクティブな感覚としての触覚の特徴)
7	触察の方法 (視覚に依存しない学習、触運動のコントロール、立体・半立体・平面の触察)
8	教材教具づくり (盲児の概念形成の特徴、学習枠の活用、分類・見本合わせ・位置の構成)
9	歩行指導の理論と実際 (ボディイメージと空間把握、校内地図、ガイド歩行、白杖歩行)
10	視覚障害教育の歴史と思想 (琵琶法師・瞽女・箏曲、検校制度と鍼灸あん摩教育、理療教育)
11	弱視児童生徒の指導 (多様な見え方、視認知力を高める学習、視覚補助具の活用、拡大教科書)
12	弱視者の体験談を聞く (自分の見え方、盲学校で学んだこと、生活・仕事・趣味、メッセージ)
13	重複障害児の指導 (新生児医療の現状、応答する環境、課題設定状況の工夫、教材教具の工夫)
14	ICT教育・スポーツ (六点入力・音声・点字出力、webによる情報収集、視覚障害者スポーツ)
15	まとめ (権利条約と合理的配慮、センター機能・地域支援、医療・療育との連携、今後の課題)

評価

授業への参加度(20点)、レポート(50点)、試験(30点)とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】学習する内容について事前に調べ、問題意識を持って授業に臨むこと。

【事後学習】小レポートを確実に仕上げ提出すること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】青柳まゆみ・鳥山由子編著「視覚障害教育入門（改訂版）」ジース教育新社

【推薦書】文部科学省「特別支援学校学習指導要領解説・総則編・自立活動編」

香川邦生「小・中学校における視力の弱い子どもの学習支援」教育出版

【参考図書】必要に応じて授業で紹介する

科目名	聴覚障害教育概論		
担当教員名	大鹿 綾		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標）

科目の性格

特別支援教育免許を取得希望の学生、また特別支援教育に興味のある学生を対象とします。

科目の概要

聴覚障害児の教育制度や指導法の基本を知るとともに、聴覚の生理や障害の原因について知識を得る。また、聴覚障害が発達に及ぼす影響を知り、障害特性に応じた教育について知見を得ることを目的とする。

学修目標（＝到達目標）

聴覚障害の生理病理的な知識を得る。

聴覚障害児の学びやその課題について理解する。

聴覚障害に配慮した指導の在り方について考えることができる。

内容	
1	聴覚障害児のための学校制度
2	聴覚障害児教育の歴史
3	聴覚障害が発達に及ぼす影響 コミュニケーション・社会性
4	聴覚障害が発達に及ぼす影響 言語獲得
5	聴覚障害児の言語指導
6	乳幼児期からの指導と障害受容
7	聾文化と手話
8	耳の仕組み
9	きこえないとは
10	聴覚障害の種類
11	補聴器に出来ること、出来ないこと
12	人工内耳とは
13	聴力検査
14	生活の中でのバリア
15	まとめ

評価

授業への参加度25%、筆記試験75%とし、総合評価60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】参考書やインターネットを活用して自ら興味を深めることを期待する。

【事後学修】授業の内容についてしっかりと復習し、質問があれば積極的にしてほしい。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に使用しない プリントを配布する

【推薦書】授業内で指定する

【参考図書】授業内で指定する

科目名	重複障害教育概論		
担当教員名	吉川 知夫		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	3	ク ラ ス	
開 講 期	後期	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	2
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

科目の性格：この科目は、特別支援学校教諭免許状を取得するための必修科目である。

科目の概要：重複障害，重度・重複障害教育に関して，その概念，障害実態，教育の現状や課題等について理解を深めることを目的とする。本授業では，重複障害者の教育課程編成，重複障害（視覚障害＋聴覚障害，知的障害＋肢体不自由），重度・重複障害児の理解と指導法，指導計画の作成について講述する。

学修目標：1）重複障害及び重度・重複障害の概念，教育課程の取扱い，教育の現状と課題について理解すること，2）重複障害児及び重度・重複障害児の指導のポイントについて理解すること，3）指導計画作成の流れを理解することの3点である。

内容

1	重複障害，重度・重複障害の概念と教育の現状
2	重複障害教育の課題
3	重複障害者等に関する教育課程の取扱い
4	個別の教育支援計画と進路指導
5	個別の指導計画作成と評価
6	重複障害児の実態把握の観点
7	重複障害児（視覚障害＋聴覚障害）の指導 1
8	重複障害児（視覚障害＋聴覚障害）の指導 2
9	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 1
10	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 2
11	重複障害児（知的障害＋肢体不自由）の指導 3
12	重度・重複障害児の発達特性
13	重複障害児教育の教材・教具，支援機器
14	重度・重複障害児の生涯に渡る包括的支援
15	まとめ

評価

学修目標に関するレポート（60点），毎回のリアクションペーパー（20点），通常の受講時の態度（20点）を加味して総合的に評価する。60点以上を合格とする。

授業外学習

【事前予習】各障害の特徴について理解をしておくこと。

【事後学修】授業時に出題する課題について調べ，理解を深めること。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

【教科書】特に指定しない。

【その他】必要に応じて授業で推薦する。授業時に関係する資料を配付する。

科目名	教育実習		
担当教員名	吉川 知夫、岩井 雄一、齋藤 忍		
ナンバリング			
学 科	人間生活学部（J）-教職課程		
学 年	4	ク ラ ス	
開 講 期	通年	必修・選択の別	必修*
授 業 形 態		単 位 数	3
資 格 関 係	特別支援学校教諭一種免許状		

ねらい（ 科目の性格 科目の概要 学修目標 ）

教科教育法や教職関連科目等によって習得してきた教職に関する知識・理論・方法論を踏まえた上で、実際に教育実習を行うに当たって具体的な事前、中間、事後の指導を行う。この指導により参観実習及び教壇実習の成果を最大限に引き出し、教員を目指すものとしての責任を自覚させ、実際の授業運営能力を向上させることをねらいとする。

なお、本科目は、教育職員免許法に定める特別支援学校教員免許を取得するための「教育実習」を含む3単位に相当する。

内容

- 1、事前指導（8時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習オリエンテーション
 - （2）実習時における勤務、サービスの心得
 - （3）実習記録の作成法
 - （4）授業の構成と指導案の作成
 - （5）実習校の訪問
- 2、教育実習協力校による2週間の教育実習
- 3、中間指導（4時限相当の時間を配当する）
 - （1）実習時における課題の把握
 - （2）実習日誌の中間提出
 - （3）研究授業及び実習についての指導
- 4、事後指導（3時限相当の時間を配当する）
 - （1）教育実習の総括的反省と今後の課題
 - （2）実習校の訪問

評価

実習校からの評価を参考に100点満点で評定する。60点以上を合格とする。

授業外学習

- 【事前予習】資料に基づく、教育実習に向けた事前の心構え、教師としての身に付けておくべきこと等を整理しておくこと。
- 【事後学修】教育実習に向けて、各自の課題を整理しておくこと。

教科書・推薦書（著者名・書名・出版社名）

実習の手引き及び実習日誌を配布する。その他は、授業の際に指示する。